

師走の浦学



World
仲間創世界



International culture ★ 国際教養の浦学
Life skill education ★ ライフスキル教育の浦学
Health & Safe Promotion School ★ 健康と安全第一の浦学
2015.12.27 ★ vol. 60



国際教養の浦学 年次サミット 2015

国際教養の浦学 年次サミット 2015

国際教養の浦学の現状と今後の展望

国際教養の浦学 年次サミット 2015

日時 : 平成 27 年 11 月 25 日(水) 17 時 30 分~19 時 40 分
場所 : 浦和学院専門学校 Unge Salon 2F セミナールーム、大会議室

国際教養とライフスキル教育の浦学

サミット開催に先立ち、小沢理事長・校長から以下の挨拶があった。

本校では、国際教養とライフスキルを柱に教育活動を展開している。

ライフスキルでは「日常生活の中で遭遇する諸問題、あるいは要求に対して、建設的かつ効果的に対処できる能力」の獲得を目指し、WHO の定義 10 項目を意識した指導を行っている。

また、国際教養においては、国際的多様性に触れる中で、「感じ、考え、行動する」行動パターンを身につけることを重視している。また、特化した教育である国際教育と学校全体を対象にした国際的な視野に立ったライフスキル教育の 2 つのポイントから国際教養を推進している。

今回のサミットは、「パネルディスカッションと総合討論」の二部制となり、関係するセクションが十二の題目について、それぞれの持ち味で発表、今後更なる国際教養の浦学発展に向けた道標となる。

**すべては生徒のため、
多様に触れる国際感覚を身につけて欲しい。
浦学にしかできない「教育推進」。
学園理事を囲み、授業終了後から議論が続く!!**



出席者

◆法人関係

学園理事長、浦和学院高等学校校長
 学校法人明星学園副理事長
 学校法人明星学園理事、浦和学院高等学校国際局顧問
 法人事務局職員

小 沢 友紀雄
 仙 波 邦 博
 大 越 修
 マリア サリシ

◆浦和学院高等学校

校長代行、副校長、教頭
 副校長、事務長
 事務長代行、事務部長、広報・企画局長、石巻・東松島交流センター長
 校務調整推進本部長
 国際局長、教科指導部英語科係長
 執行部長（国際教養・ライフスキル教育推進担当）
 執行部長（野球推進担当）
 執行部長（健康と安全推進担当）
 執行部長（コミュニケーション英語推進担当）、国際局副局長
 特任部長（国際・特進類型推進担当）
 国際局副局長、事務部副部長、業務推進センター長
 国際局副局長、国際教養推進課長
 広報・企画副局長、広報課長
 コミュニケーション英語推進課長

石 原 正 規
 浜 口 妃 敏
 車 谷 裕 通
 小 袋 伸 枝
 林 洋 平
 長 岡 修 二
 高 間 薫 子
 三 上 幸 子
 星 野 光 代
 岡 村 康 正
 石 出 和 浩
 加 藤 礼 子
 小田切 ル ミ
 ノーウッド 結基子



国際教養とライフスキル教育の浦学

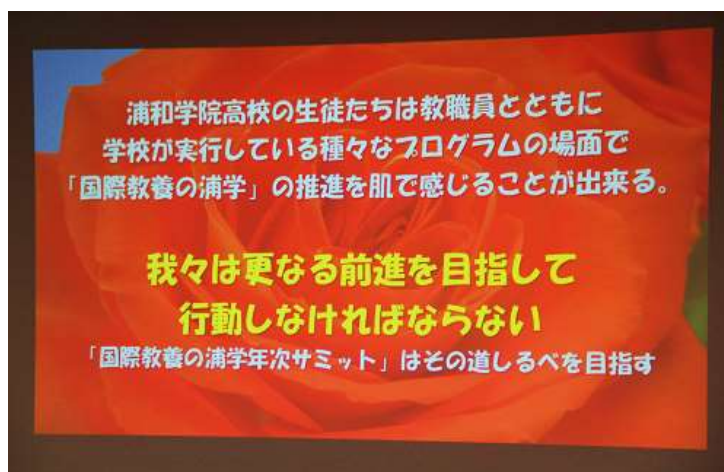
サミット開催に先立ち、小沢理事長・校長から以下の挨拶があった。

本校では、国際教養とライフスキルを柱に教育活動を展開している。

ライフスキルでは「日常生活の中で遭遇する諸問題、あるいは要求に対して、建設的かつ効果的に対処できる能力」の獲得を目指し、WHOの定義10項目を意識した指導を行っている。

また、国際教養においては、国際的多様性に触れる中で、「感じ、考え、行動する」行動パターンを身につけることを重視している。また、特化した教育である国際教育と学校全体を対象にした国際的な視野に立ったライフスキル教育の2つのポイントから国際教養を推進している。

今回のサミットは、「パネルディスカッションと総合討論」の二部制となり、関係するセクションが十二の題目について、それぞれの持ち味で発表、今後更なる国際教養の浦学発展に向けた道しるべとなる。(再掲)



国際教養の浦学年次サミット2015

パネルディスカッション 国際教養の浦学の実践

2015年11月25日

I. パネルディスカッション「国際教養の浦学の足跡」

1. 国際教育・コミュニケーション英語の推進に関して
2. スピーチコンテスト
3. グローバルコース・特進コースの英語教育の展望
4. 修学旅行とクロスカルチャーツアー
5. 交換留学の実状
 - A. 浦学生の長・短期留学についての現状
 - B. 専科留学の実状<転退学と将来の留学>
 - C. 外国からの留学生のもたらすもの
6. 姉妹校提携の現状
7. 部活動の国際的活動
8. カンボジアプロジェクトの推進
9. ISSへの取り組みと現状
10. 大使館などへの訪問
11. 国際教養の浦学推進のための事務管理部の役割
12. 教職員の意識向上のために<研修会、国際学会などへの参加>



パネルディスカッションのーコマ

①国際教育・コミュニケーション英語

ノーウッド課長：グローバルコースでは、活動重視型の教育を実践しており、PPTを使ったプレゼンテーション等を行っている。また、2年生は2学期よりディベートを講座の中でやっている。

星野部長：本校には昨年度から3名のネイティブ教員が在籍しており、1年生を中心にチームティーチングの授業を行っている。



②英語スピーチコンテスト

ノーウッド課長：毎年7月に予選を行い、9月の白翔祭の一般公開日に本選を開催している。ネイティブ教員もジャッジに入りながら、年々そのレベルは上がってきている。

⑤交換留学の実情

林局長：グローバルコースではカナダへの1年留学とオーストラリアへの1ヶ月留学を実施している。1年留学は生徒1人1家庭および1学校で実施されており、多くの異文化体験をしている。また、毎年6月に教員が現地に視察に行っている。留学する生徒の中には県から奨学金を受給され、埼玉親善大使としての役割も果たしている。

岡村部長：本校にはこれまで専科留学生としてロシアのバレースクールとフランスのバレースクールにそれぞれ留学した生徒がいる。この2名は本校を退学し、現地の学校へ入学した。

星野部長：本校にはこれまで多くの留学生が国際協会を通じて来ている。様々なクラスで留学生を受け入れており、ホームルームでは言語の壁を越えて交流している。また、留学生は帰国後も本校との交流を継続しており、本校生徒が留学生の母国に行った際には、会いに来てくれたり、本校に遊びに来てくれたりしている。



⑦部活動の国際的活動

高間部長：野球部 津田選手が今年U18ワールドカップに出場した。日々、上の舞台を目指して生徒は精進している。

加藤副局長：吹奏楽部が台湾で実施された音楽祭に参加し、現地で非常に高い評価を受けた。パワーリフティング部は毎年世界大会に参加しており、毎回上位入賞している。ハンドボール部は、昨年韓国にて親善試合を行った。テニス部も国際競技会に出場している。その中でも、2年生の女子生徒は国際大会においても実績を上げており、全豪オープンジュニアへの出場の可能性がある。この生徒は、英語でのインタビューなどを通して国際的な場で英語の必要性を大いに感じている。

長岡部長：ファイヤーレッズの中心に位置するソングリーダー部は、ソングリーディングの本場である全米大会（アメリカナショナルチャンピオンシップ）に出場し、昨年が3位で今年は優勝という輝かしい成績を収めた。来年の出場もすでに決定している。また、ソングリーディングは他のチームを讃える精神を大切にしており、非常に精神面でも成長した。サッカー部は昨年、初めて海外遠征（北京遠征）を行った。アウェーの地で生徒は普段の試合では味わえない苦労を体験した。

岡村部長：漢楽部は一昨年設立された中国語を学ぶ部活動で、初代顧問は上海師範大学を卒業した本校職員が務めていた。普段の中国語学習だけではなく、白翔祭での展示や横浜中華街訪問等を行ってきた。また、昨年は、生徒1名が中国語スピーチコンテストに参加し特別賞を受賞した。



⑧カンボジア交流プロジェクト

林局長：およそ5年前から本校とカンボジアは交流を行ってきており、本校教職員が現地に赴いた時には、現地子ども達と美術等の専門性を活かして交流してきた。

長岡部長：昨年の4月にシン・ナム議員一行が本校に来校した。そして、国際、特進類型の生徒を対象に講演を行った。そして、最後に一人の生徒が日本とカンボジアの学校の違いについて質問をした。この質問に対して、シン・ナム議員は実際に自分の目で見てみなさいと言い、本校生徒5名をカンボジアに招待すると仰ってくれた。そして今年の1月に生徒5名がカンボジアを訪問した。生徒は、現地の子ども達と交流する中で、勉強する目的について考えさせられた。そして、勉強する目的は、自分の為だけではなく、世の中の為であるという答えを見つけて帰ってきた。来年の1月には10名の生徒がカンボジアを訪問する予定である。

車谷部長：海外からの来客の際、カンボジアに限らず、台湾や中国を含め国際教養・ライフスキル推進担当が誠心誠意対応している。今年新設された部署の意義は大きい。生徒による歓迎会・晩餐会など、来客が本校を評価して下さる一つの理由として、本校の「本気度」が相手に伝わっているからであろう。

⑩国際教養の浦学推進のための事務管理部の役割

浜口副校長：今年度より法人事務局職員としてマリアさんが本校で勤務している。マリアさんは、海外の人とのコミュニケーションをとる際の単なる通訳ではなく、学校方針を理解して相手に伝える役割を担っている。また、教務部と事務部の連携を図るために今年度は、国際局と広報・企画局を設置している。



パネルディスカッションのまとめ

⑫教職員の意識向上

小沢校長：本校教職員に対して研修への参加を推進している。この研修を通じて、教職員の意識を改革できる。例えば、国際学会・国内学会等への参加は非常に有意義である。学会への参加を通して、議長の質問にうまく答えるスキルや重要な事を簡潔に伝える能力を身につけられる。さらに学会発表の効果として オリジナルに対する意識改革やストレスを自分でコントロールできる能力を身につけられる。



II. 総合討論

総合討論（司会：校長）

総括：石原副校長（教務） 浜口副校長（事務管理）

コメンテーター： 国際局顧問 大越理事





副理事長 仙波 邦博



学園理事 大越 修



理事長・校長 小沢 友紀雄

仙波副理事長：驚きました。浦和学院がここまで進歩した。私は決して東大が良いとは思わないが、将来的に東大やハーバード大学が出ていけばいい。気持ちよくなる学校になってほしい。

大越理事：先生方はとてもよく頑張っている。このサミットを機に再出発していきましょう。

小沢校長：急展開したのには理由がある。英語が嫌いな生徒でも、自分から近づこうという姿勢が見えてきた。「感じ、考え、行動する」を生徒が実践できる機会が増えてきた。そしてまた、本人がそれを意識しない中で行動できるようになってきた。生徒も先生方も夢・目標は常に高く持ってもらいたい。

先生方の今日の発表を見て、先生方が要点をしぼって発表する能力を持っているということがわかったのが、驚きでもあり、収穫でもあった。

大越理事：今日は、早稲田大学教養学部長のピニングトンさんの記事を持ってきたが、すでに先生方はこの記事の内容を実践している。様々な人に様々な話を聞いて刺激を受けることができる。そのことをぜひ生徒に伝えてもらいたい。



小沢校長：一般の生徒に対するライフスキル教育は非常に重要である。その中で生徒には問題解決型の思考を養ってもらいたい。その為には、「言われて行動する」から「自分で考える」への変化が重要。

様々な交流活動に前向き且つ積極的に行っていく。単なる交流から熱意と建設的な目的を持った交流へ移行していく時期である。

ISS 関連の取り組みの中でも英語は重要である。その上で物怖じせずに建設的な方向へ持っていくことが必要。オーストラリアで共同のアンケートを行い共有し、お互いの高校の違い等を今後検討していくことに期待したい。新しいことに一歩踏み出してみることが大切である。

「英語が上手じゃないから」ではなく、教職員と一緒にやっていく意識が必要。様々な先生方を巻き込んでやっていく。

海外大学への進学については、それが実現していけば学校がよくなり、ファミリー意識も高まるのではないかと。

林局長：旧国際部だと、一部のコースに対しては関わられたが、学校全体を通しては非常に難しかった。だが、国際局ができて、他の部署と連携が取り易くなったので、学校全体の活動を行いやすくなった。海外大学進学については、10年前まではそこを目指す生徒はいなかった。しかし、現在は海外大学や留学に対して興味を持つ生徒が類型やコースを問わずに増えてきた。

今後は段階的に海外大学進学や難関海外大学合格を目指していきたい。

長岡先生：今回カンボジアを訪問した生徒は国際類型と特進類型の生徒であったが、お互いが尊重し合い、とても良い関係が築けていた。台湾の慧燈高級中学の教職員が調印式の為に本校を訪れた際に、漢楽部の生徒が緊張して中国語の言葉につまってしまった場面があった。この時に、先方の校長先生がその生徒の肩を抱いてくれた。この場面からも心が通った（With heart）交流が大切であると感じた。

石原先生：様々な交流活動の情報を学内で共有し、皆で取り組んでいくことが重要である。皆でやるからこそ終わった時に達成感が得られる。

加藤副局長：様々な交流活動を幅広い類型の生徒に積極的に促していくことが大切である。生徒が常に温かいハートを持ち、一歩踏み出す勇気を持てるように後押ししていきたい。その点で、ライフスキル教育の石巻との交流活動が現在これを実践していると思う。

車谷部長：大きくわけて3つのポイントで交流活動について話したい。1点目は、国際教養・ライフスキルの部署との流れがスムーズになった。従って、石巻・東松島のボランティアツアーについても全類型の生徒が参加し、活動もスムーズに進んでいる。2点目は広報・企画局として、教務からの情報が素早く流れてくるようになった。いくら良い事をやってもそれを発信させられなければ不十分である。3点目は、With heart の交流の大切さである。実際に台湾を訪問した際、先方から心のこもった対応を受けてきた。やはり交流を継続していくためには With heart で交流していくことが重要である。

小田切副局長：これまでは事務と教務の共有がスムーズにできなかったが、広報・企画局となり、気軽に事務に相談しに行けるようになり、情報を共有しやすくなった。今後の課題としては、生徒や保護者に小さなことでもよりタイムリーに伝えていければと思う。また、広報活動に対して保護者が積極的になったと感じる。浦和学院総カメラマンみたいに「いいな」と思った瞬間を撮れればとも思う。



国際局長 林教諭



国際副局長 加藤教諭



広報・企画副局長
小田切教諭



浜口副校長



ノーウッドコミュニケーション英語推進課長



石原副校長

ノーウッド課長：大越理事の記事の中で「英語を使って、ほかのことを学ぶのが重要です。付加価値の高いことを大変と感じるのは、いいことだと思います。若い人は少し無理したほうがいいでしょう。野心を高めたいです」という部分に共感しました。現在、2年A組で英語ディベートを実施しており、安楽死などのテーマで生徒に考えさせています。最初はチャレンジでしたが、生徒は頑張っており、非常に嬉しく感じています。このような取り組みを少しずつ広げていきたいです。

浜口副校長：今年からマリアさんが入り、交流活動において非常に前向きで、常に向上心を持って取り組んでもらっている。これからも、事務局として生徒が経験できて良かったなと思えるような交流活動の実施をサポートしていきたい。

小沢校長：宗教・モラルに対する教育の必要性を感じている。どのようなモラルを教えていくのかを考えていく必要がある。これは、オーストラリアの3校にアンケートの打診をした際に、先方から宗教やモラルを踏まえることの話を受けてのことである。

大越理事：現在はテロも多発しており、国際社会の安全面を大いに意識しなければならない。その為にセキュリティ対策も必要である。そんな中で、音楽で世界を平和にしていこうという活動に取り組んでいる人もいる。

浦和学院では、これだけ素晴らしい活動を行っているのだからぜひこれらの活動を大いに外部発信してもらいたい。

仙波副理事長：もちろん海外の文化を理解することは重要だが、日本の文化に対しても理解を深めることも非常に大切だと思う。生徒には漫画でもいいから日本の文学や歴史について知識を深めてもらいたい。

小沢校長：日本文化を大切にすることも重要である、そして、相手を尊重、尊敬することもグローバルな考え方である。宗教については、難しいテーマだが、日本の宗教やイスラム教などの他の宗教について理解していくことも重要である。自分の利益と相手の利益を常に考えていく必要がある。

浜口副校長：本日のサミットを通じて、あらためて国際教養の浦学の推進の為に前進していこうという気持ちが強くなった。私自身、これからも最大限サポートしていく。

石原副校長：これからも、中国訪問やカンボジア研修など国際交流行事は目白押しですが、一つ一つ皆で連携しながら取り組んでいきましょう。

